

2013年の人口移動調査結果

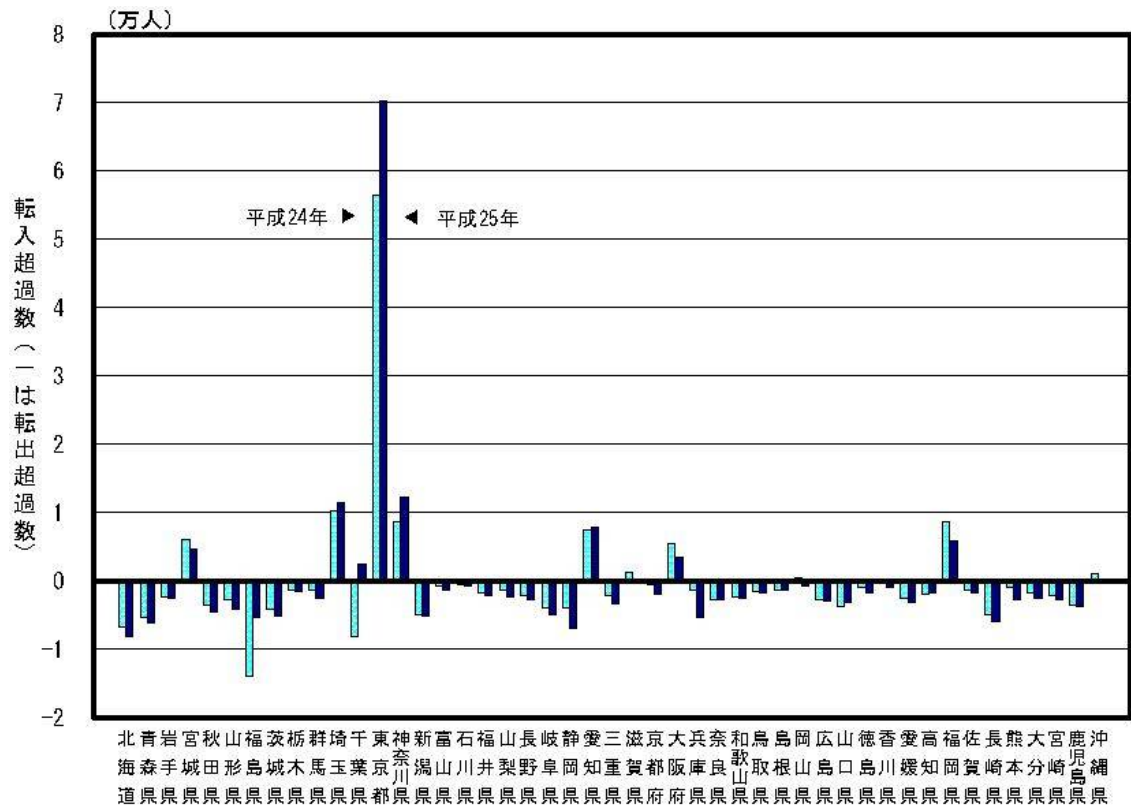
総務省は、1月30日に平成25年の住民の移動報告(県間や都市間の住民の移動)を行った。引っ越して来た人から出て行った人を差し引いた人数(来た人が多ければプラス、出て行った人が多ければマイナス)転入超過数を都道府県別にみると、

東京都(7万172人)、神奈川県(1万2356人)、埼玉県(1万1554人)など9都府県で転入超過となり、前年に比べ2県減少している。

一方、転出超過数をみると、

北海道(-8154人)、静岡県(-6892人)、青森県(-6056人)、長崎県(-5892人)など38道府県で転出超過となっている。

それを図にすると下のようになる。



また、都市間の移動では、3大都市圏(東京圏、名古屋圏及び大阪圏)の転入・転出超過数をみると、東京圏(東京都、神奈川県、埼玉県及び千葉県)は9万6524人の転入超過、名古屋圏(愛知県、岐阜県及び三重県)は147人、大阪圏(大阪府、兵庫県、京都府及び奈良県)は6591人の転出超過となり、名古屋圏及び大阪圏は前年の転入超過から転出超過に転じている。

愛知県、大阪府自体は、転入超過ですが、名古屋圏、大阪圏の広域で見ると周辺県の転出が多く、転出超過で出て行った人の方が多い。

東京一極集中が加速しつつあります。47都道府県の内38道府県が転出超過になっています。市町村では、全体の76.2%が転出超過になってしまっています。地方ではますます過疎化が進み、さらに若い人が減少して、活気がなくなってしまう恐れがあります。

中部の3県の主要都市の人口の増減を見ると、名古屋市が7,891人増加し、岐阜県では、岐阜市が668人減少、大垣師が55人増加、美濃加茂市が154人増加になっています。三重県では、津市が500人減少、四日市市が539人減少、桑名市が251人増加になっています。

(総務省統計局の人口移動報告資料より)